

## 第13回 学校再編検討会 次第

日時 令和3年12月1日（水）  
場所 市役所3階 第1会議室  
14:42～15:45

### 1 あいさつ（山下教育長）

- ・学校再編基本構想だけでなく、議会答弁について確認していただきたいことがあるので今回素案と合わせて検討をお願いしたい。

### 2 協議事項

#### （1）議会答弁について

- ・事務局より議会の通告書について説明。

「一貫」と「連携」のそれぞれの語句について文部科学省では明確な使い分けを行っている。検討委員会で改めて確認したい。

- ・検討会の議論を振り返ってみる中で、小中一貫教育と連携教育の内容や併設型、一体型といった学校の形態の議論をさらに深めるべきと感じた。

現在の状況として市内の英語教育は小中一貫したカリキュラムづくりが進められており、教育大綱の中でも目指す子ども像がうたわれている。学校や学年で発達段階は異なるが、それぞれの段階に応じて、学校が目標設定することは可能なように思う。そうなれば小中一貫した教育を目指しているといえると思うが、いかがか。

- ・これまでの考え方そのものが変わるわけではない。ただ、英語はカリキュラムづくりが進んでおりスタートできる段階にあると思うが、その他の教科はそうではない。また、全教科に一貫したカリキュラムを導入するとなると教員の負担が大きくなりすぎるようにも思う。少しずつカリキュラムづくりに向けた研究ができるように、一貫したカリキュラム教育を目指す、といった幅を持たせた表現ができれば良い。

- ・小中一貫教育とした際に義務教育学校のイメージが前提となってしまう、市民の方が混乱してしまうといった意見もこれまでの検討会で出されていた。学校再編後、芦原中学校区に統合校が創設される段階で急に一貫教育をスタートさせることは困難ではないか。現状から一貫教育に移行するには時間がかかる。両中学校区の足並みをそろえる必要があるのでは。

- ・小中一貫教育とは1つのカリキュラムに沿って行う教育を指しており、学年や学校、校地は問わないため、芦原中学校区でも小諸東中学校区でも取り組むことはできる。また、統合校の校舎を新設するとしても今から6、7年かかると思われる。この間に、答申にある通り子供たちの学力向上、中1ギャップ、不登校対策の一環として一貫したカリキュラムを両中学校区でつ

くりはじめればよいのではないか。先行事例では、まず英語や算数・数学でカリキュラムを組むことが多いようだ。算数・数学は積み重ねの教科であり、いずれかの学年でのつまずきが後々苦手意識へと繋がりやすい教科であるためだと思われる。新たなカリキュラムづくりをするにあたり、確かに教員の負担は増えるが、中学校教員は、中学の授業の基礎が小学校のどの課程にあるのか知っておかなければならないと思う。これからカリキュラムづくりを始めて、芦原中学校区の統合校の校舎が完成する頃までに2つか3つの教科で一貫教育に取り組みられれば理想的だと考えている。

- ・これまでの小中の連携をなくしたくない。連携を深めつつ一貫教育を進めればよいのではないか。
- ・文部科学省で一貫教育と連携の違いを明確に定義している以上、一貫教育の手段として連携を用いては、有識者にとってわかりにくく混乱を招きやすい。一貫教育を段階的に目指すこと、これまで行ってきた連携も引き続き取り組んでいくことを分け、それぞれ位置づけるべきではないか。
- ・来年度にも一貫教育実現に向けて少しずつ取り組みをはじめられればと思う。一度にカリキュラムづくりを進めても教員が実践できず机上の理論だけになってしまう。

⇒これまでの表記から、小中学校での連携は継続すること、今後、小学校中学校を通じたカリキュラムに基づく小中一貫教育を目指すこととし、学校再編基本構想に位置付ける。

## (2) 学校再編基本構想素案について

- ・事務局より前回からの変更点について説明。
- ・小中連携と小中一貫の記載が同じ段落にあると混同する可能性がある。

⇒12月8日までに指摘事項があれば事務局に連絡。

## (3) その他

- ・公共施設マネジメント研修会参加について

- ・今後の検討会のスケジュールについて事務局説明。

当初の予定では、年内に学校再編基本構想の素案を作成し、1月から説明会を開催する予定であったが広報による周知期間が必要であるため2月末開催とし、開催地も新型コロナ感染予防の観点から開催数をへらして対応したいと考えている。そのため、小学校単位ではなく中学校単位の開催でいかがか。

⇒スケジュール変更、開催地変更について委員了承。

次回会議予定 12月21日(火)